第７章　有価証券

７－１　取得

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　有価証券の内容を理解しよう！

②　取得時の仕訳をマスターしよう！

③　付随費用に注意しよう！

主な勘定科目

「有価証券」勘定（資産）

（１）有価証券とは？

有価証券とは、株式会社が発行する株式や社債、国が発行する国債、地方公共団体が発行する地方債などをいいます。なお、国債、地方債、社債をあわせて**公社債**といいます。また、株式は１株、２株と数えるのに対して、公社債は１口、２口と数えます。

有価証券は様々な目的で取得しますが、全商簿記３級においては、売買目的で保有する場合を学習します。売買目的の有価証券は「**有価証券**」勘定（**資産**）で処理します。

（２）取得

有価証券を購入した場合、支払った金額（**取得原価**といいます）で「**有価証券**」勘定（**資産**）の増加として処理します。

取得原価は、有価証券の購入金額（**購入代価**といいます）に証券会社等に支払った買入手数料（有価証券の購入に付随する費用なので、これを**付随費用**といいます）の合計額となります。

取得原価 ＝ 購入代価 ＋ 付随費用

① 株式の場合

株式を購入した場合、１株あたりの購入代価（株価）に購入株式数を乗じて購入代価を算定します。

取得原価 ＝ １株あたりの購入代価 × 購入株式数 ＋ 付随費用

例題７－１　**売買目的でA社株式10株を１株あたり150円で購入し、代金は購入手数料100円とともに現金で支払った。**

有価証券という資産が増加するので「有価証券」勘定（資産）の増加として処理します。取得原価は@150円×10株＋付随費用100円＝1,600円となります。

借方科目	金額	貸方科目	金額
有価証券	**1,600**	**現金**	**1,600**

② 公社債の場合

公社債を購入した場合、１口あたりの購入代価に購入口数を乗じて購入代価を算定します。なお、購入口数は購入した額面総額を１口あたりの額面金額で割ることにより算定します。

取得原価 ＝ １口あたりの購入代価 × 購入口数 ＋ 付随費用

購入口数 ＝ 購入額面総額 ÷ １口あたりの額面金額

例題７－２　売買目的でB社社債額面総額30,000円（額面100円につき96円）で購入し、代金は買入手数料50円とともに現金で支払った。

有価証券という資産が増加するので、「有価証券」勘定（資産）の増加として処理します。購入口数は、額面総額30,000円÷額面100円＝300口、取得原価は@96円×300口＋付随費用50円＝28,850円となります。

借方科目	金額	貸方科目	金額
有価証券	**28,850**	**現金**	**28,850**

７－２　売却

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

売却時の仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「有価証券」勘定（資産）

「有価証券売却益」勘定（収益）

「有価証券売却損」勘定（費用）

有価証券（株式及び公社債）を売却した場合、有価証券という資産が減少するので「**有価証券**」勘定（**資産**）の減少として処理します。

取得原価より高く売却した場合は、取得原価と売却価額の差額を「**有価証券売却益**（ゆうかしようけんばいきゃくえき）」勘定（**収益**）として処理します。また、取得原価より安く売却した場合は、取得原価と売却価額の差額を「**有価証券売却損**（ゆうかしようけんばいきゃくそん）」勘定（**費用**）として処理します。

取得原価　＜　売却価額（**高く売却**）　→　有価証券売却**益**
取得原価　＞　売却価額（**安く売却**）　→　有価証券売却**損**

①　帳簿価額より高く売却した場合

有価証券という資産が減少するので、「有価証券」勘定（資産）の減少として処理します。取得原価より高く売却していますので、売却価額と取得原価の差額は「有価証券売却益」勘定（収益）の増加として処理します。

例題７－３　**以前に取得したＡ社株式10株（売買目的、取得原価1,600円）を１株あたり200円で売却し、代金は現金で受け取った。**

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
現　　　　　金	**2,000**	**有　価　証　券**	**1,600**
		有 価 証 券 売 却 益	**400**

現金：@200×10株＝売却価額2,000

②　帳簿価額より安く売却した場合

有価証券という資産が減少するので、「有価証券」勘定（資産）の減少として処理します。取得原価より安く売却していますので、取得原価と売却価額と差額は「有価証券売却損」勘定（費用）の増加として処理します。

例題７－４　**以前に取得したＢ社社債額面総額10,000円（売買目的、100口、取得原価9,700円）を額面100円につき95円で売却し、代金は現金で受け取った。**

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
現　　　　　金	**9,500**	**有　価　証　券**	**9,700**
有 価 証 券 売 却 損	**200**		

現金：@95×100口株＝売却価額9,500

第７章　有価証券　問題

問題7-1　以下の取引に関して、仕訳を行いなさい。

①　X社株式50株を１株あたり2,000円で購入し、代金は購入手数料1,500円とともに小切手を振り出して支払った。

②　①で取得したX社株式のうち、30株を１株あたり2,010円で売却し、代金は当座預金口座に振り込まれた。

③　Y社社債（額面400,000円）を額面100円につき96円で購入し、代金は購入手数料4,000円とともに小切手を振り出して支払った。

④　③で取得したY社社債のうち額面300,000円を額面100円につき99円で売却し、代金は小切手で受け取った。

第７章　有価証券　答案用紙

問題7-1

	借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
①				
②				
③				
④				

第７章　有価証券　解答解説

問題7-1　**解答**

	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
①	有価証券	101,500	当座預金	101,500
②	当座預金	60,300	有価証券	60,900
	有価証券売却損	600		
③	有価証券	388,000	当座預金	388,000
④	現金	297,000	有価証券	291,000
			有価証券売却益	6,000

問題7-1　**解説**

①　取得原価：@2,000×50株＋付随費用1,500＝101,500
　有価証券を取得した場合、「有価証券」勘定（資産）で処理します。

②　１株あたりの取得原価：101,500÷50株＝@2,030
　売却したX社株式30株の取得原価：@2,030×30株＝60,900
　売却価額：@2,010×30株＝60,300
　有価証券売却損：取得原価60,900－売却価額60,300＝600

③　取得口数：額面400,000÷額面100＝4,000口
　取得原価：@96×4,000口＋購入手数料4,000＝388,000

④　１口あたりの取得原価：388,000÷4,000口＝@97
　売却したY社社債額面300,000の口数：額面300,000÷額面100＝3,000口
　売却したY社社債額面300,000の取得原価：@97×3,000口＝291,000
　売却価額：@99×3,000口＝297,000
　有価証券売却益：売却価額297,000－取得原価291,000＝6,000